

事業報告

講座名	「希少野生動植物種保護支援員研修会（第1回）」		
日時	平成24年10月20日（土） 9：30～16：00		
場所	秋吉台エコ・ミュージアム 秋吉台（長者ヶ原、真名ヶ岳）	参加者数	24人

1 スケジュール

9：30～ 9：35	開会行事
9：35～10：00	講義「支援員の役割」
10：00～10：40	講義「草原ふれあいプロジェクト」
11：00～12：10	プロジェクト実施状況の観察（長者ヶ原）
12：10～13：00	昼食・移動
13：00～15：50	野外での植物観察（真名ヶ岳周辺）
15：50～16：00	閉会（アンケート回収）

2 活動内容

午前中は主に室内で、山口県自然保護課の井本繁紀氏による「支援員の役割について」の講義と、自然観察指導員（秋吉台エコミュージアム指導員）の田原義寛氏による「草原ふれあいプロジェクト」の活動の目的と結果等についての講義と現地視察を実施した。

午後からは、秋吉台の真名ヶ岳周辺で自然観察者の中沢妙子さんと宮田文子さんによる植物の観察会を実施した。

◇ 講義

（支援員の役割）

県自然保護課 井本繁紀

資料（自然と人との共生の推進）により、榎野川河口干潟の再生活動の状況や、秋吉台の自然保護活動、山口の自然公園、生物多様性の保全、外来生物について説明があった。

（草原ふれあいプロジェクト）

自然観察指導員 田原義寛

◎ プロジェクトの必要性、活動等の概要、成果などについて室内で講義があった。

生き物でにぎわう草原にするために、草刈りを行うこと。ただし、ルールに従い、草刈り場所の選定や、刈った草を必ず持ち出すことが説明された。プロジェクトには、多くのボランティアが参加しているが、企業や地元小学校の参加もあること。草を刈った年は花が多く見られるが、年々減少し、3年程度で再度草刈りを行うと花は増加すること。「秋吉台の草原学習のしおり」（別添）を作成し、小中高校に配布した。



「草原の復元プロジェクト」として、長者ヶ原のヤブの草を刈り、樹木の量等の変化を観察しているが、今年は多くの花が咲いている。(ムラサキセンブリ等が増加)



- ◎ 今年、特にプロジェクトの成果が見られ、多くの花が咲いている長者ヶ原に移動し、プロジェクトの実施状況等の説明を聞き、遊歩道沿いに咲いている花を観察した。また、コドラートを用いて、単位面積当たりの花の数を調べた。

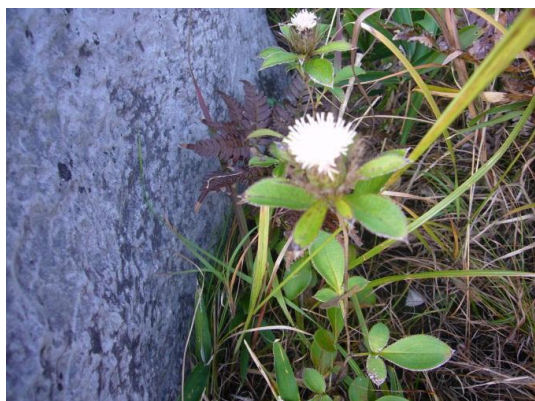
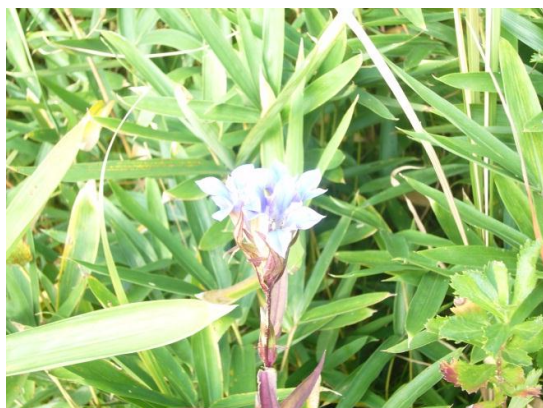
(植物の観察会)〈真名ヶ岳周辺〉

自然解説者 中沢妙子
宮田文子

受講希望者を先着順で2班に分けて、秋吉台少年自然の家の駐車場付近から真名ヶ岳に向かう草原を廻るコースを観察した。参加者は、配布した資料「秋に見られる草花」を見ながら、花の名前を確認し、講師の説明を聞いていた。

アキノキリンソウ、アキヨシアザミ、イヌタデ、ウメバチソウ、カワラナデシコ、サワヒヨドリ、シロヨメナ、センブリ、ノガリヤス、ヤマハッカなどの植物を観察した。

特に、今回の研修の目当てだったリンドウやムラサキセンブリなどの花を見つけ、喜び参加者も見られた。





(感想)

昨年は秋吉台の春の花を対象に開催したが、今回は、秋の花を対象に観察会を開催したところ、参加者の感想はおおむね良好だった。

春は、山焼きの後で草の背丈が低く、花が草と同等の高さで見られ、色鮮やかであるのに対し、秋は草の背丈も伸び、草の間に見られる花も多く、違った風景であった。

観察会の希望者が多く、急遽、講師を2名に増やしての対応となったが、混乱もなくスムーズに行われた。観察場所では狭い所もあり、一列で歩くこともあるので、説明を聞くには、10名程度に1名の講師が適当と思われた。